

日・モザンビーク共同声明(骨子)

冒頭

両首脳は、新たな日モザンビーク間の「友情」(AMIZADE:アミザーデ)パートナーシップⁱの下に、互恵的な(WIN-WIN)関係を構築するため、以下の分野で最善の協力を行うことを確認。

1. TICAD及び二国間関係全般

- モザンビーク側:日本のTICADプロセスを通じたアフリカ開発の主導的役割とこれまでの支援を評価。
- 日本側:ゲブーザ大統領のTICADIV及びVへの出席等、TICADプロセス推進への貢献を評価。
- ◆国家の発展における平和と安定の重要性についての認識を共有。日本の安全保障だけでなく地域及び世界の平和と安定に貢献する「積極的平和主義」に基づき行動するとの日本の決意と取組を歓迎。
- ◆二国間関係を更なる高みに導くべく、ハイレベルの政策対話の定期開催を決定。

2. 経済分野における協力

- モザンビーク側:日本企業の投資促進・円滑化のため、安全かつ安定的な投資環境整備に一層努力。
- 日本側:インフラ開発、戦略的マスタープラン作成、人材育成等を通じ、日本企業の投資促進。資源分野の人材育成、ビジネス環境整備に向けた「日モザンビーク天然ガス・石炭発展イニシアティブ」を表明。
- ◆ビジネス環境整備に向けた官民合同対話の開催を決定(注:上記ハイレベル政策対話と併せ開催)。
- ◆サブサハラアフリカ諸国では初となる日モザンビーク投資協定の早期発効に向けた期待を表明。

3. 経済協力分野における協力

- モザンビーク側:日本の協力に対する感謝の意と協力強化への意欲の表明。
- 日本側:
 - ナカラ回廊開発:同回廊地域の総合的な開発を中心に5年間で約700億円のODA供与を表明。
 - 人材育成:ABEイニシアティブ及び他の技術協力を活用し、資源開発、資源を利用した産業開発、環境保護の分野において、5年間で300人以上のモザンビーク人の人材育成を行うことを表明。
 - 青年海外協力隊(JOCV):派遣10周年を歓迎し、JOCVの増員を図る旨表明。
- ◆熱帯サバンナ農業開発プログラム(プロサバンナ):計画実施にあたり、市民・農村社会との緊密な対話を継続し、地域住民の生活向上及び小農の貧困削減のために協力することを確認。
- ◆経済協力2件、農業研究開発、大学間の学術交流に関する協力文書等の署名を歓迎。

4. 国際場裡等における協力

- 本年6月の首都マプトでの第3回対人地雷禁止条約検討会議の成功に向けた協力、安保理改革に係る協力、文化・スポーツ面での交流促進、教育・学術交流の活発化等を確認。(了)

ⁱ「日本国とモザンビーク共和国の間の新パートナーシップ—開発の活性化及び加速化に係るイニシアティブ」(略称:日モザンビーク「友情」(AMIZADE)パートナーシップ)。AMIZADE(アミザーデ)は、ポルトガル語で「友情」の意。JApão-Mozambique - *Iniciativa para dinamizar e Acelerar o DE* desenvolvimento の太字部分を繋いだ名称(英語は、JApán-Mozambique Initiative for revitalizing and Accelerating the DEvelopment)。